

リウマチセンターだより

リウマチの治療とは リウマチセンター 副センター長 倉沢和宏

リウマチの治療はこの10年で大きく変わりました。現在の関節リウマチの治療は、抗リウマチ薬と消炎剤を併用し、効果が不十分なら生物製剤治療も加え、「寛解」といわれる関節の腫れ・痛みのない状態をめざしていきます。いったん、「寛解」に入ったらその状態を保つように治療を継続します。寛解がある期間続いたら薬を減らす、または一部の薬を休止することもあります。大切なことはこの炎症のない状態、寛解を保つことです。

患者さんも病気のことを理解し、なぜこの治療をやっているか理解することが大切だと思います。また、治療に使う薬剤には副作用があります。治療によってどのような副作用があるか、どのような症状がでたら医療機関を受診するか、副作用の予防法（メソトレキセート：リウマトレックスは風邪・下痢などの体調の悪い時は飲まない）を理解することが重要です。

この6月にスペインで欧州リウマチ学会があり、出席してきました。リウマチ治療のガイドラインが発表され、その初めには「リウマチ治療は最良のケアを目的とすべきであり、患者とリウマチ医との決定に基づいていなければならない」とあります。共に最良のケアをめざし、歩んでいきましょう。

第2回獨協リウマチセミナー

2013年5月30日、リウマチセンター主催の第2回獨協リウマチセミナーが開催されました。まず私が「看護師の立場から見た関節リウマチ」についてお話しさせていただきました。次に順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院看護師長の長谷川智子先生より「関節リウマチにおける看護師の役割」、栃木リウマチ科クリニック院長の篠原聡先生より「クリニックにおける関節リウマチ診療ABC」について、ご講演いただきました。

近年、リウマチの分野でも早期診断・早期治療が患者のQOLの維持に有効であると言われております。治療の主体も、疼痛緩和を中心とした対処療法から、抗リウマチ薬や生物学的製剤により、関節破壊を止め、寛解を目指せるように変化してきています。看護師の役割も自己注射の指導などの看護技術・患者管理へと変化しております。より専門的な知識が求められるようになり、治療過程の中でも看護師の果たすべき役割は重要であると言えます。今後もこのような研修会を開催することで皆様にリウマチ医療の知識を深めていただきたいと思っております。リウマチセンター看護師 福田敏子(日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師)



第2回リウマチ教室を開催予定

2013年11月16日(土)当大学病院センター棟4階 会議室において患者さん向けにリウマチ教室を開催します。今回はリウマチの検査のみかたやリウマチのリハビリテーション、患者さんの体験談などを予定しています。詳細は後ほど掲示します。みなさまふるってご参加ください。

編集後記

残暑が厳しいですが、体調を崩さないようにご留意ください。iPadを利用した問診システムの導入を検討しています。今後もよりよいリウマチ診療ができるように努力したいと思います。